ENTERTAINMENT

『火星の人　上・下』
アンディ・ウィアー／著
小野田　和子／訳
早川書房（ハヤカワ文庫）
2015年

人類3度目の有人火星探査のミッションは、猛烈な砂嵐により滞在6日目にして中止を余儀なくされた。6名のクルーが火星を離脱する寸前、折れたアンテナの直撃を受け、探査クルーのひとりマーク・ワトニーが砂嵐の中へと姿を消してしまう。残った5名はワトニーが死亡したものと判断し、火星をあとにする。

しかし、ワトニーは生きていた。奇跡的に軽傷で済んだワトニーは、自分ひとりが火星に置き去りにされたことを知る。アンテナは消失し、地球と連絡をとる手段はない。居住施設や探査車は無事だが、残された食料だけでは次の探査隊が到着する4年後まで生き延びられない。ワトニーは不毛の地で食物を栽培すべく、必死のサバイバルをはじめる。

主人公ワトニーはNASAの宇宙飛行士で、植物学者にしてメカニカル・エンジニアという知力、体力ともに優れた人物ですが、私たちと同じようにあやまちを犯し、さまざまな窮地に陥ります。この窮地を知恵と工夫の限りを尽くして乗り越えていく姿には共感が、どんな状況にもユーモアを忘れないワトニーの性格には笑いが生まれ、物語にどんどん引き込まれていきます。

ハードSFながらも、ふだんはSFを読まない人にも読みやすい作品です。

「ユースフルエイジ（Youthful Age）」はYA世代に送る、本・漫画・映画・音楽などのおすすめ情報を掲載した渋谷区立図書館が発行する定期刊行物です。

YA（ワイエー）とは…
Young Adult（ヤングアダルト）の略で、おおむね12歳から18歳までの人たちのことをさします。

ユースフルエイジ
2021年8月・9月号【No.3】

発行／編集　渋谷区立図書館
株式会社図書館流通センター
発　行　日　2021年 8月

渋谷区立中央図書館
電話　3403−2591
住所　渋谷区神宮前1−4−1

8月・9月号
【No.3】

SHIBUYA CITY LIBRARIES

Recommended books

Pick Up!

宇宙への扉をあけてみよう！

『宮沢賢治「銀河鉄道の夜」と宇宙の旅』
谷口　義明／著　光文社　2020年

宮沢賢治『銀河鉄道の夜』はどのように構想されたのか？ 『銀河鉄道の夜』における“はくちょう座”から“みなみじゅうじ座”まで、北天と南天に見える十字を結ぶ旅の描写や、賢治の書いた天の川や天体についての比喩的な記述は現在の天文学からみても正しいのか？ などを解説する、『銀河鉄道の夜』から入る天文学の入門書。天の川のなかを銀河鉄道に乗って旅をする物語、『銀河鉄道の夜』。この旅は親友の死出の旅路であり、生と死が交錯する、自分なりの「幸せ」に思いを巡らせる旅でもあります。あなたも賢治の宇宙観を感じてみませんか。

『世界一美しい星空の教科書』
大平　貴之／著
宝島社　2019年

著者は、小学4年生の時にプラネタリウムで見た星空に感動。自分の部屋にも星空を作り出したいと思ったのが全ての始まりでした。

その星空作りは、夜光塗料からピンホール式のプラネタリウム、そして、個人製作は不可能と言われていたレンズ投影式のプラネタリウムへと広がりました。今や世界が認めるプラネタリウム界の第一人者です。

そんな、星空を愛してやまないプラネタリウム・クリエーターが、星の世界をナビゲート。星空の歴史から、星の色が異なる理由、星空観察のおすすめスポット、88星座までを、美しい画像と共にわかりやすく紹介します。

『Google Earthで行く火星旅行』
後藤　和久／著　小松　吾郎／著
岩波書店　2012年

近年、火星の研究は驚くほど進展しています。火星軌道を回る衛星から送られる写真の解像度はいまや、25センチメートル四方が1ピクセル（画素）として見えるほど。超高解像度画像を含め、火星の様子を収めた画像はGoogle Earth（グーグルアース）を使って見ることも可能です。

本書では最新のデータや研究成果に基づき、火星の研究をより詳しく紹介するとともに、50年後の未来の火星旅行の様子をフィクションとして織り交ぜ、火星にまつわる知識を楽しく綴っています。

付録の赤青メガネを使用して見る立体画像も盛り込まれ、リアルな火星ガイドを楽しめます。

New!

『天体観測に魅せられた人たち』
エミリー・レヴェック／著
川添　節子／訳
原書房　2021年

危険を伴った旧時代の天体観測、重力波証明の瞬間に起こったドラマ、すばる望遠鏡や空飛ぶ望遠鏡SOFIA、次世代望遠鏡LSST…。

天文学者たちのとんでもない実態と、目まぐるしく変化した観測天文学の半世紀を追う。

『るるぶ宇宙』
林　公代／監修
JTBパブリッシング
2021年

国際宇宙ステーションを大特集。また、探査の最前線から未来の旅行プランまでを紹介し、JAXA筑波宇宙センターなど、日本の宇宙スポットを案内する。宇宙スペシャルグラビアも掲載。

（データ：2021年1月現在）

COLUMN

宇宙を知ろうとすること

天文や宇宙はいつでも遠いところにあって、なかなか近づけないもののようでもあり、反対に、すでに身近にありふれているもののようでもあります。宇宙探査機の探査の道のりは果てしない一方で、朝昼の太陽、夜の月や星は以前から身近で、見上げた先にあることが至極当然と思えますし、曜日の名称はひとつ残らずみんな太陽系の星の名前からきているのです。

文明の誕生とあわせて、人類は自分たちの生きる場所、つまり自分を取り巻く世界としての宇宙について、その始まりや姿を考え、身の回りの事象からこれを解き明かそうとしてきたといいます。宇宙は時に、神話やおとぎ話などを通して理解され、科学の発展に伴って現在に続く宇宙観が成立するようになりました。

『図解身近にあふれる「天文・宇宙」が3時間でわかる本』
塚田　健／著
明日香出版社
2020年